

事故(災害)報告書

令和 5年 5月 2日

千葉県健康福祉部高齢者福祉課長 様

施設名 社会福祉法人 特別養護老人ホーム じょうもんの郷
施設長 伴田 卓 (印) (担当者氏名 上原 明日佳)

事故(災害)発生日時 令和5年4月20日(木) 14時40分

事故・災害の概要

3名で施設周辺散歩へ行く。職員1名が車いすの利用者様の車いすを押し、本人と一緒に隣で歩かされていた。手を腰の後ろで組みながら歩くことが癖で、手を後ろで組みながら歩かされていた。しかし緩い下り坂で前のめりになり、足がもつれ右顔面より、右上半身を下にしコンクリート地面に転倒。顔面・右唇・鼻より出血。声掛けに反応なくイビキをかいていた。しばらくすると意識が戻り、声掛けに対し返答もあった。

診断結果 右目内側の小骨骨折・右手第5趾ヒビ

入院の有無 有・無 介護認定 有・無 (介護度 介護1)

ふりがな おかの まさこ (年齢) (性別) (入所年月日) デイス利用 ショート利用
当事者名 岡野 政子 86歳 男・女 令和3年 10月 22日

事故(災害)の内容

発見場所

施設周辺の私道

発見時の状況

顔面・右唇・鼻より出血。声掛けに反応なくイビキをかいていた。意識が戻ると、鼻の痛みを強く訴えられていた。

発生原因等 思い込み

- ①利用者様2名に対し職員一名で散歩に行ってしまった。
- ②主が円背ではあったが独歩可能だったため、職員は他の方の車いすを押し、本人を支えていなかった。
- ③手を腰の後ろで組んだまま歩行させてしまっていた。

発生からの対応状況

- 4月20日 14:40 施設周辺道路にて転倒
14:15 施設内の職員に応援を呼び、救急要請行う。
15:50 救急車にて、搬送先決まったため、成田国際医療福祉大学病院へ出発
18:25 搬送先の病院、眼科・形成外科にて診察。右目周辺の小骨が折れているがOPEをするほどでも無いと診断。形成外科からも、顔面の腫れが引かなければ詳しい診断はできないが、本人の意識レベルははっきりしているため入院はせず、通院の指示あり。
19:30 救急外来Drへ、本人の体調・認知レベルを相談し、一泊だけ入院となる。
- 4月21日 11:00 成田国際医療福祉大学病院へ退院の有無を確認し、退院し通院の指示となる。
15:00 本人の顔面の腫れ・歩行困難なことから、急変のリスク強くあり、協力病院の江戸崎病院へ相談し江戸崎病院へ転院・入院となる。
- 4月25日 9:00 本日成田国際医療福祉大学病院、眼科・形成外科受診日。しかし江戸崎病院にて38度以上の発熱。通院先へ確認し、眼科のみの受診となる。(江戸崎病院からの通院)
15:00 眼科のみ受診し、眼圧など検査にて異常なし。骨が治るまでに三か月程かかるが通院継続の指示あり。形成外科は別日の予約取り直しとなる。(江戸崎病院からの通院・江戸崎病院へ戻る)
- 4月27日 11:00 入院中の江戸崎病院より、4/26より肝機能悪化・食欲不振・黄疸ありと報告あり。次回通院日が未定となる

今後の対応・改善点

- ・散歩を行う時は利用者様一名に対し、職員一名にて対応する。
- ・独歩の方でも長距離で足元が不安な利用者様は車いす又はシルバーカーを押して散歩を行う。
- ・後ろで手を組んだ状態で歩行させない。前傾姿勢等、歩行の姿勢も考慮し散歩の対応を行う。

家族への連絡等

- 4月20日 15:00 第一連絡先長男様・第二連絡先長男嫁様へ緊急連絡行方が不通のため、第三連絡先のお孫様へ連絡。散歩中に転倒し、顔・鼻からの出血・痛みの訴え強いため、成田国際医療福祉大学病院に救急搬送させて頂くことを伝え謝罪。救急搬送先病院へ行向かって頂き痛いことを伝える。
- 18:25 救急搬送先病院にて第一連絡先の長男様到着。散歩中に緩い下り坂で転倒してしまい顔面の腫れ・出血・身体の痛みがあった。現在は眼科にて処置を行って頂いていることを伝え、施設長・看護師・相談員より謝罪。
- 19:30 救急外来Dr・ご家族様・施設長・看護師・相談員と、退院となった場合の施設での対応状況・本人の認知症状・急変の危険性を考え入院をさせて頂きたいことを伝え同意して下さる。

※ 当事者が複数の場合は、必要により別葉に記入してください。